

アーチルニュース ちえなっぷ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所 仙台市泉区泉中央2丁目24-1

TEL：022-375-0110 Fax：022-375-0142 e-mail：fuk005410@city.sendai.jp

<http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou>

人から人へ、そして未来へのかけ橋

「南部アーチル」の利用が新年1月から始まります。

まもなく、「仙台市南部発達相談支援センター」（＝南部アーチル）が完成します。皆様のご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

いくつかの家が寄り集まったような外観にあたたかさを感じます。

建物内部にも優しさや温もりがいっぱい。これまでの「出会い」を思い浮かべ、
これからの「出会い」を想いながら、出来上がった南部アーチル。

「ちえなっぷ第21号」で、南部アーチルのオープン情報をお伝えします。

仙台市発達相談支援センター（アーチル）は、保護者の熱いお気持ちや切実な願いと「仙台市リハビリテーションシステム検討会」の提言を受け、平成14年4月に開所。今年10年目を迎えています。

アーチル開拓期のこの10年間、障害のある方や保護者のエンパワーメント、ネットワークづくりや支援体制整備といった支援者・地域のエンパワーメントに取り組んできました。

「保護者支援ネットワーク活動」や「myサポートファイル（アイル）考案と作成」、「自閉症児者相談センターや地域活動推進センター等の整備と連携」等、新たな社会資源を生み出し、成果を築いてきています。

また、発達障害者支援法の制定や特別支援教育の実施など制度改革が行われてきました。

アーチルの組織目的、『早期の出会い』と『生涯ケアの実現』の原動力は、人と人とのつながりによる協働力です。

「自分らしく、生き生きと生活する。ともに支え合い、安心して暮らす。」ために何をするのか、それによって、生活が豊かになったか。

生涯ケア実現の途上にあり、障害者保健福祉制度が大きく変化する過渡期ですが、皆様と築いてきました実績の上に、お一人おひとりの願いが住みなれた地域において充足されるような環境づくりを一緒に推し進めてまいりたいと考えています。

今回で21を数えるアーチルニュース『ちえなっぷ』は、軌跡の一端といえます。

「出会う」「つながる」「連携する」「参加する」のことばが通して出てきました。

南北2館で、距離や時間が近くなって、障害のある方と市民の「かけ橋」の役目を果たしていきたいと思います。さらに、今の私達から未来の私達へ確かにつないでいきたいなと思うところです。

南部発達相談支援室長 佐久間 幸一

アーチル10年の歩み

アーチルは平成14年度の開所以来10年、発達障害児との「早期出会い」と子どもから大人までの「生涯ケアの実現」を目指し、相談支援の充実と関係機関との連携、研修会・セミナー開催等での市民への普及・啓発など、個々のニーズに応じた支援と、行政機関として関係機関とのネットワークづくりや、身近な地域での支援システムづくりに取り組んできました。

具体的には、地域での相談支援のための自閉症児者相談センター「ここねっと」の開設(平成18年度)、在宅の自閉症児者の社会参加を促すための地域活動推進センター「ここねっと・ディ」「ほっとスペース歩歩」「アクティブ・ディ」の整備や保護者(本人)の「my サポートファイル『アイル』」を活用した取組み、青年期の本人活動と自助グループ活動への支援や保護者の自主グループ活動への支援など、不足している発達障害児者と家族への支援システム充実に向けた取組みを行ってきました。

しかし、この10年間の発達障害の社会的認知の広がり等から、年間相談件数は約7,100件(平成22年度)と開所当時の1.7倍に増加し、相談

予約待ちの期間が長期化する等、タイムリーな相談支援や施設支援が難しい状況となっております。

また、現在のアーチルは市北部(泉区)にあるため、南部居住者の利便性の向上も、相談件数増加と共に、大きな課題となっていました。

これらの課題を解決すべく、平成19~20年度と保護者、支援者、医療関係者、教育関係者、学識経験者等による「発達障害児者に対する今後の支援体制について」の検討を行い、「南部アーチルを整備する」方針が明確になり、平成24年1月、太白区役所西隣に「南部アーチル」が開設する運びとなりました。

「発達障害者本人(家族)が地域の中で自分らしく生活していく」ためには、地域での支援体制整備が必要であり、その下支えの行政機関としての役割を、南北アーチルは期待されているという自覚のもと、今後も業務を進めていきたいと考えております。

平成24年1月開所

「南部アーチル」です!

若林区・太白区にお住まいの方の 相談支援を行います。



| 担当するアーチル | お住まいの区域 | 所在地・電話 |
|---------------|-------------|---|
| 北部アーチル | 青葉区・宮城野区・泉区 | 泉区泉中央2-24-1 (これまでのアーチルの場所です。) TEL375-0110 |
| 南部アーチル (New!) | 若林区・太白区 | 太白区長町南3-1-30 TEL247-3801 |

太白区役所西側、
地下鉄長町南駅
すぐそば!

◇名称 仙台市南部発達相談支援センター
「南部アーチル」

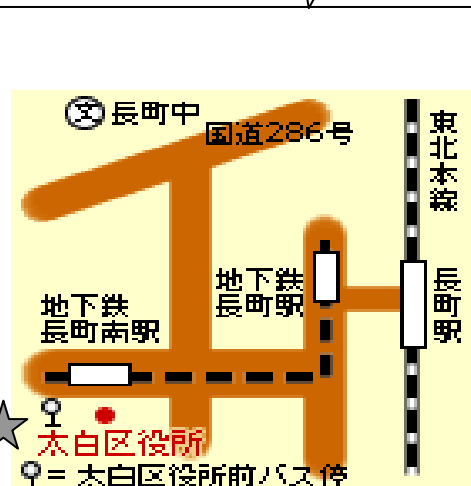
◇業務内容 子どもから大人まで、発達障害のある方を対象に、相談および地域で生活していくための支援を行います。

◇利用時間 平日の午前8時30分から午後5時まで

◇アクセス

- 地下鉄 市営地下鉄長町南駅下車
西1番出口を出て、右手にすぐ見えます。
- バス 長町南駅太白区役所前下車

南部アーチルは
ここです



南部アーチル開所に寄せて

なのはな園沖津園長

南部アーチルができ、より身近になることは、とても喜ばしいことです。いろんな障害がある子どもたちがいますが、アーチルと園とが子どもの発達について話し合っ共有し、子どもの視点に立った子育て支援をしていけたらいいと考えます。また、南部アーチルや他の関連機関とも密に連携し、子どもとその保護者が地域で豊かに暮らしていけるよう、お互いの役割を確立していけたら…と思います。

高機能自閉症当事者活動「青年の会」メンバーより

南部アーチル開設おめでとうございませう。長町南にもできて利用しやすくなります。発達のことで悩んだら近くのアーチルへ相談したいと思ひます。ますますの成人支援機能の充実、きめ細やかなサービスを期待してひますので、これまで以上によりよいもの、他にはないものへと発展してください。

自閉症児者相談センター職員

当センターとしては、南部アーチルと協働で、地域の状況に合わせた人材養成プログラムや連携相談を実施するなど、より地域密着型のシステムを作っていきたいと思ひてひます。また、ケースカンファレンスの頻度を増やすことで、評価及び支援の質を向上させていくことも共に取り組んでいければと思ひます。

おもちゃボランティアさん、 ありがとうございます!!

アフターケア室
で活動中☆

現在南部アーチルのために手作りおもちゃを製作して下さっています。おもちゃボランティアさんには、これまでアーチルの初期療育グループで使うおもちゃを作っていたいてひました。現在4名の方が活動してひり、南部アーチルでも月1回活動していただく予定です。手作りのおもちゃは温かみがあり、子どもたちに大人気。南部アーチルで大切に使用させていただきます。

おもちゃボランティアさんより一言!

「おもちゃボランティア、募集中です!!」

興味のある方はアーチル乳幼児支援係(375-0182)までお問い合わせを♪





「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思っております。



大阪天満橋ロータリークラブ様、大阪大手前ロータリークラブ様、大阪中之島ロータリークラブ様からビデオカメラ、プロジェクターが寄贈されました

平成23年10月4日、上記3団体から、やまびこホームあてビデオカメラ、プロジェクターを各1台寄贈していただきました。



宮城県医師会館で行われた贈呈式には、各ロータリークラブの方にお越しいただき、大阪大手前ロータリークラブの岡田耕平様から発達相談支援センター佐藤所長あて目録が手渡されました。



さっそく、やまびこホームの療育活動などで大切に使用させてもらっております。大変ありがとうございました。

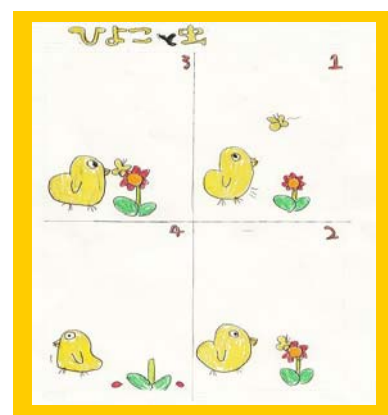
本人発の通信を発行しました！

発達障害当事者としての「自分たちの思いや経験を伝えたい」高機能自閉症当事者として、理解啓発活動をしている「青年の会」のみなさんが、発達障害

本人や家族、支援者向けの通信を発行しました。

A3判2ツ折り、今回は「進路選択」がテーマです。

興味のある方は、アーチル窓口へ。ホームページでも掲載中です。



『ひよこと虫』平賀智行さん作

通信第1号
の表紙です！

発達障害と共に生きる本人
家族、学校、支援者の方へ
第1号

人生の分岐点、どう歩いていこうか
進路を選択するときに

人生は選択、自己決定の繰り返しです。高校卒業を終えると、進学や就職、どんな生活をするのかなど、たくさんの「分岐点」に出会います。発達障害に向き合っている先輩たちは、難年輪、さまざまな「分岐点」をどう生きて何を志していたのでしょうか。先輩たちからの言葉をヒントにしてみてください。

私は発達障害のある青年です。これまで苦労したことや経験したことをまとめました。もっと私たちが暮らしやすく働きやすい社会になればいいと思って、この通信を作りました。



高機能自閉症当事者活動「青年の会」発行 (事務局アーチル成人支援係)

編集後記

今年も早いものであと1か月、南部アーチルの引越しまでも残りわずかとなりました。

現在、南部発達相談支援室では新しい建物で相談が始められるように、着々と作業を進めております。万全の状態が開所できるよう職員一度頑張っています。楽しみにお待ちください。(嶋岡)